

研究部会終了報告

部会名 中小企業のためのOR

期間 1973年5月～1975年3月

開催回数 研究部会 18回

分科会 延20回

おもに使用した会場 千葉工業大学工業経営学科研究室

正式メンバー(所属)

ト部舜一(千葉工大・幹事)・大沢聖一(三共精機・幹事)・笠原二郎(笠原機械・幹事)・鈴木正則(NCR・幹事)・伊井 勉(東京証券計算センター・幹事)・稲田久二男(日本コンサルタントグループ)・鈴木平八(三輪精機)・伯野慶三(伯野技術士)・古屋丈夫(ソフトウェア・リサーチアソシエイト)・梅村 守(東理大)・大津数豊(高千穂パローズ)・石橋常明(石橋鉄工所)・高橋敬二(持田製薬)・河西 孝(日産プリンス販売)・金子文司(日本ユニパック)・加藤喜一郎(日本旅行)

研究内容

1. 中小企業のためのORとして、具体的な研究テーマを討議し、「広告問題」—効果的な広告のやり方をきめた。
2. このテーマに関して、四つの局面を設定し、つぎの4分科会を発足させた。
 - (1) 広告媒体の選択方式
 - (2) 広告予算の決定方法
 - (3) 広告効果の測定の評価方法
 - (4) 広告情報システムの構成
3. それぞれの分科会でOR技法を理論的に考究、検討し、いくつかの方法論を展開した。
4. これらの理論の批判と展開とを目途として、某旅行サービス業に関して、広告実施についての具体的問題点の解明に着手した。現在、実際データの提供をえて、解法と結果の討議とを行ないつつある。
5. あとしばらくは、例会として研究会(月1回くらい)を開き、研究作業をつづけるかたわら、今までの成果や今後えられるであろう結果や結論を整理し、報告書作成を企図したい。

会合記録

月日	テーマ	内容	報告者
昭48. 5. 12	第1回会合	研究メンバー自己紹介、研究目的の説明他	主としてト部舜一
6. 9	第2回会合	中小企業における経営問題点討議	研究メンバー全員
7. 4	第3回会合	1. 講演「中小企業金融の問題点とその対策」 2. 中小企業問題点レポートのまとめ 3. 研究計画の討議	商工中金 米沢成彬氏 メンバー全員
9. 29	第4回会合	1. 問題点の標準化、作業 2. アンケート方法審議	メンバー全員
10. 20	第5回会合	1. アンケート調査実施報告 2. 研究テーマの審議、決定	鈴木 正則 メンバー全員
12. 1	第6回会合	研究会分科会の内容、組織の決定	メンバー全員
12. 18	第7回会合	分科会メンバーの配属討議 各研究方法考究	メンバー全員
49. 1. 12	第8回会合	1. 各分科会報告 2. 研究作業調整	3. 懇親 メンバー全員
1. 16	各分科会	文献調査報告	各分科会
2. 16	各分科会	同上	各分科会
3. 9	第9回会合	各分科会研究経過の報告および討議	メンバー全員
3. 16	効果測定分科会	文献検討会	主幹ト部舜一
4. 4	広告予算分科会	広告目標、広告費の定義についての討議	主幹稲田久二男
4. 20	効果測定分科会	評価アルゴリズム、評価基準などの討議	主幹ト部舜一
4. 24	広告予算分科会	広告効果との連関の討議	主幹稲田久二男
5. 18	媒体選択分科会	研究方法の討議	主幹梅村 守
5. 18	第10回会合	各分科会報告および討議	メンバー全員
6. 11	広告予算分科会	広告予算の重みづけ	主幹稲田久二男
7. 2	広告予算分科会	弾力性分析手法討議	主幹稲田久二男
7. 13	効果測定分科会	評価構造の討議	主幹ト部舜一
7. 13	第11回会合	各分科会報告および討議	メンバー全員
7. 20	媒体選択分科会	L. P. による方法論の考究	鈴木 正則 他
7. 28	媒体選択分科会	同上	鈴木 正則 他
以下、分科会の会合記事は省略			
9. 14	第12回会合	評価方式について発表および討議	メンバー全員
10. 12	第13回会合	1. 分科会報告および討議 2. 旅行サービス業としての広告問題	メンバー全員 加藤喜一郎
11. 9	第14回会合	具体的な広告問題へのアプローチ方法討議	メンバー全員
12. 14	第15回会合	1. 研究作業方針の審議 2. 懇親会	メンバー全員
50. 1. 18	第16回会合	販売高と広告費との関連性の追求	ト部舜一
2. 15	第17回会合	同上	稲田久二男 他
3. 8 (予定)	第18回会合	同上(ただし媒体別)	鈴木 平八 他

会計報告

取 入		支 出	
円		円	
1. 研究費 30,000 (学会より48年度)		1. 図書購入費 7,320	48年度
2. 研究費 30,000 (学会より49年度)		2. アンケート郵送費 (40円×300通)	12,000 //
		3. アンケート用封筒代	660 //
		4. 研究会ゴム印およびスタンプ台	3,220 //

5. 講演謝礼 (商工中金 米沢成彬氏)	5,000	〃
6. 連絡通信費	4,090	〃
7. 文庫図書類購入費	8,080	49年度
8. 資料印刷費	6,130	〃
9. 連絡通信費	8,500	〃
10. 会場費 (500円×10回)	5,000	〃
合 計	60,000	合 計 60,000



システム・ダイナミックス研究部会

1. 月例研究会

本研究部会は昭和48年9月に発足、51年3月まで継続を認められたが、『経営科学』第18巻第2号(1974年3月)の「部会だより」以後50年3月までの月例研究会の報告は次のとおりであって、部会員の報告のほか、渡辺一司、合田周平、公文俊平、坂倉省吾の各氏に講演をお願いした。

49年

- 2/21 SDの基本問題について
渡辺一司(光洋精工)
- 3/28 SDの意義と限界
合田周平(電通大)
- 4/18 会員討論 栗原宏文(東亜燃料工業),
佐々木良一(日立), 富田 潔
(味の素), 斉藤雄志(電力中研)
- 5/16 SDにおけるシステムの概念
公文俊平(東大)
- 6/20 たばこの世界モデル
大沢 光(たばこ総研)
- 7/18 年金シミュレーション
島田俊郎(明大)
- 8/15 プロセス制御へのSDの応用
栗原宏文(東亜燃料工業)
- 9/19 ドル・ショック下の企業行動モデル
富田 潔(味の素)
- 10/24 CSMPについて
木下知己(三菱総研)
- 11/21 エネルギー・ダイナミック・モデル
斉藤雄志(電力中研)
- 12/19 地域開発モデル 山内 昭(東洋大学),

樋口 透(小樽商大),
小島崇弘(土浦短大),
宮沢信一郎(日大)

50年

- 1/16 班別討議 栗原宏文, 長谷川文雄(清水建設), 斉藤雄志
- 2/20 腎機能シミュレーション
本多中二, 三島則比古(電通大)
- 3/20 SDによる医療システムの分析
坂倉省吾(工業技術院)

2. 班の構成

本部会は49年5月に次の4班を設けた。

- 1. 日本におけるSDモデルの収集および整理
班長 島田俊郎
- 2. SDモデルの理論的研究 班長 栗原宏文
- 3. 社会的要因の数量化について
班長 亀山三郎(中大)
- 4. 他のOR手法とのドッキング
班長 斉藤雄志

各班それぞれ4、5名の班員により構成されている。第2班および第4班は班別討議のほか合同討議を行なってSDの基礎的な考え方をまとめる方向で検討中である。SDを何と定義したらよいかしばしば議論されているが、部会としてまだまだまとまっていない。班員の報告をもとに研究中の一つは、SDにfaces analysisを加えられないかという案である。あらかじめ定められた数項目を顔の要素として用い、各時点で顔形を抜き出させて比較するという試みである(長谷川文雄)。第2は信頼性表示の案であるが、近來公害に対する関心の高まりとともに、企業モデル、地域モデルともに急増が考えられるので、SDの信頼度を高めるために、モデルの各部分に信